

## 感染防止に留意した市民救命士講習等の指導要領

### 【感染防止対策】

講習会の実施については、以下の感染防止対策を講じる。

- ・発熱や体調不良があれば受講を控えてもらう。
- ・受講者のマスク着用については、個人の判断に委ねる。ただし、**高リスク時はマスクの着用について協力をお願いする。**
- ・手洗い、手指消毒の推奨
- ・高リスク時は指導者と受講者、受講者同士の距離は「人と人が触れ合わない距離での間隔」を確保する。

### 【指導上の注意点】

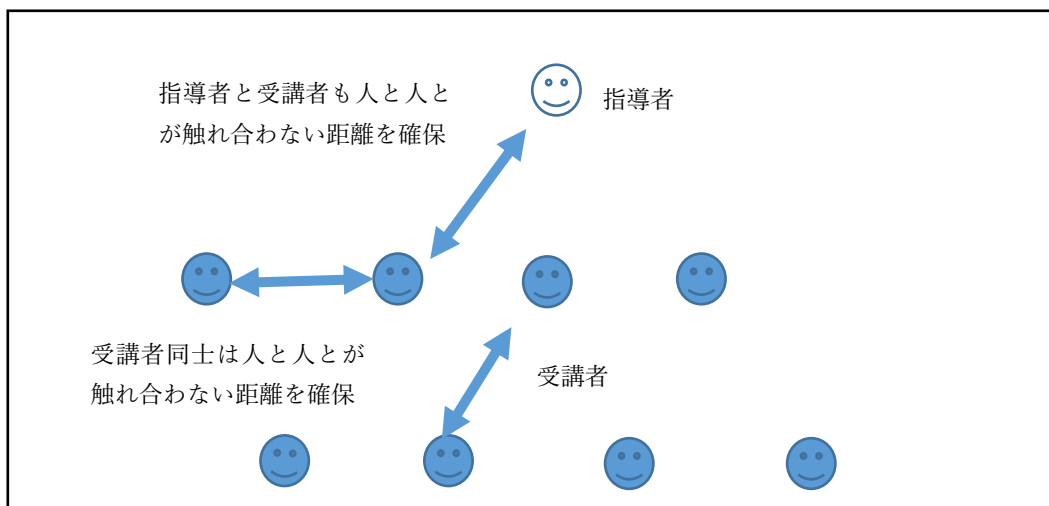
- ・人工呼吸の手技については説明と展示を実施。
- ・人工呼吸は、指導者も含めて呼気の吹き込みは行わない（ジェスチャーのみ）。
- ・受講者の実技終了毎に資器材等の消毒や手指消毒などを実施。
- ・受講終了後には手洗い及び手指消毒を実施。

### 【講習会の進め方】

#### 1 DVD・講義

- ・高リスク時、DVD視聴及び講義時の座席については、「人と人が触れ合わない距離」での間隔を取る。

(高リスク時のDVD視聴・講義レイアウト)



## 2 心肺蘇生法の実技

- ・ 異物除去についてはリトルアンを用いた指導者の展示のみとする。
- ・ 「反応の確認」や「呼吸の確認」の際に、傷病者の顔と救助者の顔があまり近づきすぎないように指導する。
- ・ 人工呼吸についてはマウスピースの挿入と気道確保などの手順を説明し、実際の呼気吹込み（マウスピースに口をつけることも含む）は実施しない。受講者も同様とする。
- ・ 新型コロナウイルス流行下では、実際の場面で心肺蘇生法を行う際には、下記のとおり実施するように説明を行う。
  - 「反応の確認」や「呼吸の観察」を行う際に、傷病者の顔と救助者の顔があまり近づきすぎないようにする。
  - 成人に対しては、救助者が講習を受けて人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合でも、人工呼吸は実施せずに胸骨圧迫だけ続けるようにする。
  - エアロゾルの飛散を防ぐため、胸骨圧迫を開始する前に、ハンカチやタオルなどがあれば傷病者の鼻と口にそれをかぶせるようにする。
  - 小児に対しては、講習を受けて人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合には、胸骨圧迫に人工呼吸を組み合わせる。

### (高リスク時の実技指導でのレイアウト)

